



## 地域おこし協力隊 市村孝広さん 学生時代の思い出を胸に。 この地域を、 もっともっと元気にしたい

取材・文・撮影／家入明日美



めえめえの会  
(Instagram)

上／市村さんは大阪府出身。東海大学農学部を卒業し、大手食品加工メーカーに勤めた後、地域おこし協力隊に。黒川区創造的復興プロジェクトを遂行しながら、2022年からは羊にまつわる活動を始めました。  
左・下／震災の記憶を伝える、震災伝承館轍(わだち)で、来場者へガイドをおこなう市村さん。土曜日のみ開館。

地域おこし協力隊として、10年ぶりに村に戻ってきた市村さん。東海大学で過ごした4年間がかけがえのない時間だったからこそ、すっかり様相の変わってしまった黒川地区を前に、「正直ショックでした」と話します。そんな市村さんにとって、協力隊としてのミッション「黒川区創造的復興プロジェクト」は、特別な思い入れのある仕事。「震災にまつわることを伝えたい。マイナスイメージを、ちょっとでもプラスに変えたい」。旧長陽西部小学校を整備した震災伝承館轍でのガイドをおこないながら、黒川地区でのイベントなどを企画し、地域を元気づけようと奔走しています。

その一環で、昨年には黒川地区で羊の毛刈りや羊毛紡ぎのイベントを主催。普段見慣れない羊の姿に、子どもから大人まで大はしゃぎ。多くの参加者で賑わう

1日となりました。

そうした経験から、市村さんは一念発起。協力隊業務外で有志を募り、南阿蘇鉄道沿線の休耕地に羊を導入することにしました。「休耕地を活用できて、景観的にもいい」というのが、その理由。行政区とも話し合い、沿線の草刈りや竹藪の除去にも精力的に取り組んでいるそうです。「せっかくここで羊を飼うのなら、地域に貢献できる形でやりたい。そのために、自分たちにできることはやろうと。南阿蘇鉄道が全線開通したら、列車から羊を眺めて喜んでもらえるように、今はその光景を夢見て頑張っています」。

学生時代とは異なる立場、経験、思い出。見えるものや、やるべきことが変化しても、心の真ん中にはいつも「地域」を据えて。



めえめえの会として、休耕地で羊を飼育。春には仔羊も生まれる予定です。前職で養豚に携わってきた市村さんですが、羊はまだまだ知らないことだらけ。「東海大学でお世話になった先生に指導をいただきながら活動しています。毎日新入社員の気分。ペットではないけれど、愛情を持って接したい」と話します。2023年も、5月の連休に羊の毛刈りイベントを企画中。(写真提供／めえめえの会)